

本当の幸せとは

リヒテンシュタイン公国アルフレッド王子

その国にはその国の文化があり、その固有性、多様性は大切です。社会は、か弱いもの（マイノリティ）をどう扱うかが問題です。無慈悲な進歩を続けてはならない。物質的な限りない進歩やパラダイムは実現不可能であり、その無理な追及は地球の破局を招く。また過剰な物質からの満足は得られない。物質主義、経済最優先の考えから早く脱却しなければならない。

現代の社会では、消費に給するものだけが、また消費能力のある人だけが価値あるとみなされています。しかしこれらの価値観や社会システムは200年以内に誕生したもので、決して持続可能でも地球全体に適応可能なシステムでもありません。

先住民は自然と共存し、自立し、自給自足し、自然を破壊せずに何千年、ことによると何万年も生きてきた実績を持っているのです。しかし、国連や先進国の資本によって途上国で巨大な開発が行われ、先住民は追いやられています。その計画を彼らとともに見直し、その決定は破壊の実績のあるUNDP（国連開発計画）や政府ではなく、永續の実績のある彼らに任すべきではないだろうか。先住民はその美しい自然の見張り役になるべきではないだろうか。

私たちは自分に問わなければならない、どのような文明を求め、どのようなヒューマンイズムを求めているのかを。弱いものから奪い、地球を破壊し尽くす文明を堅持し続けるのか。不思議なことにウランの多くは先住民の『聖なる土地』と呼ばれる場所にあります。私たちはウランを求めて先住民の『聖なる土地』を汚し、先住民の文化を破壊し、そしてこの地球を滅ぼそうとしているのです。

フランスの詩人サンテグジュペリの『星の王子さま』の中で人間についてキツネが語ります。

「人間は忙しくなって自分で考えようとしなくなった。

なんでもお金で買おうとする。しかし友だちを買えるお店はない。

だから友だちも友情もなくなった。どうすればいいのだろうか」

星の王子さまは答えます。

「それは簡単なことなのです。

黙って、心で真実を見ることです。

目には見えない本当のことがわかるようになるのです。

あなたは一生、全てのものたちに責任があるのです。

本当の幸せとは、すべてのものたちに責任を持つことなのです」

私たちは絶えず生産を増加させ、GNPを増加させています。

にもかかわらず自分が何を求めているかわかっていません。

なぜなら目を開けていないからです。

物質的な成長は終わりに近づきました。知識だけではもう前に進めません。

そろそろ本当の叡智を働かさなければならないのです。

先住民の伝統的な叡智、すなわち沈黙の文化に耳を傾けることです。